三鷹市立第五中学校　令和8年度【保健体育】授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	○授業規律を明確に示し、落ち着いて学びに向かう環境を整えることができた。 ○スポーツには多様な関わり方があるということを示す中で、授業への取り組みの幅が増えた。	○授業規律を意識して活動できるようになったことで、目標を意識して活動できる生徒が増えた。また、それに伴い、自身の課題を見いだし、学習に取り組む姿も見られるようになった。 ○運動の楽しさが過度の興奮につながった際は、学習課題への取り組みが曖昧になってしまう場面があることが課題である。	◎学習に前向きに取り組む雰囲気をさらに高めるため、授業ごとに目標を確認し、目的意識をもって活動できるようにする。 ○一人ひとりの課題や実態に応じた目標設定を支援し、小さな達成を積み重ねながら主体的に学べるよう個別の働きかけを充実させる。
第2学年	○生徒同士で互いの課題を分析し、解決に向けての手立てを話し合わせる中で、主体的に活動する生徒が増えた。 ○生徒のつまずきに対して、個に応じたスモールステップでのアドバイスを行うと同時に、仲間の成功を共有する中で、肯定的な関わりや声かけが増えた。	○仲間同士で課題や改善方法を話し合う機会を設けたことで、主体的に学習に取り組む生徒が増えている。 ○個に応じた助言と成功体験の共有により、互いを認め合う声かけや支え合う姿が見られるようになった。 ○体育委員を中心に、自主的に学習へ向かう姿勢が広がっている。 ○教員の助言を参考にしながら、目標達成に向けて努力することができている。	◎体育委員だけでなく、全ての生徒が自分の課題を理解し、目標を明確にした上で学習できるよう、対話を通した学びの機会を充実させる。 ○基礎的な知識・技能の定着を図るため、振り返り活動を継続するとともに、多様な考えに触れられるグループ編成を工夫する。
第3学年	○自他の学習を振り返る場面を設定することで、仲間と課題解決の方法を分析し、学習を進めることができるようになった。 ○様々な角度から運動について考える機会をもったことで、自分なりの運動との関わり方を工夫できるようになった。	○学習を振り返る活動を取り入れることで、仲間とともに課題解決の方法を考えながら学習を進められるようになった。 ○運動やスポーツとの関わりを多面的に捉えることで、その価値や意義について考える力が高まっている。 ○学習カードの内容を次の活動に生かしながら課題解決に取り組む姿が増え、学習の質が向上している。 ○課題分析の力が高まるとともに、仲間へ具体的な助言を行う生徒も増えている。	◎「する・わかる・見る・支える」の視点からスポーツとの関わり方を確認し、生涯にわたってスポーツに親しむ基盤を育成する。 ○技能のポイントやつまずきやすい点を分かりやすく示し、生徒同士が協力しながら効果的な練習方法を考える機会を設ける。 ○ICT機器を活用し、客観的に課題を把握できる場面を増やす。 ○生徒一人ひとりに応じた発問を工夫し、自ら課題を見付け、解決に向けて主体的に取り組めるよう支援する。